

「防災減災連携研究ハブ」構想

※防災減災連携研究ハブ：日本学術会議 22 期、23 期学術大型研究計画提案課題
国際プロジェクトである災害リスク統合研究(IRDR)の発展を担う日本の拠点として、
災害原因の学際究明、多様で大容量のデータや情報の統融合、災害リスクに関わる自
然・社会・人間の関連性を解明する。資料 01-03b,c 参照。

国内主要課題

- ・ 南海トラフ・首都直下型地震等の国難を生き抜く
- ・ 広域化・頻発化・激甚化する水災害のリスクを軽減する
 - 激甚水害が連続して発生し、国土が疲弊しているところに大震災が発生
 - 大震災の復旧・復興過程において頻発する激甚水害への対応の困難性と復興の停滞

国際主要課題

- ・ Nation's Synthesis の推進
※各国において災害リスクを軽減するための科学技術に関する情報を母国語で共有する機能を開発し、各国のナショナルプラットフォーム、国家とローカルをつなぐファシリテータがこの情報基盤を用いて、科学的知見に基づく災害リスク軽減の各国、各地の取り組みの現状や課題を俯瞰し、あるべき姿を議論し、総合的な視野で取るべき対応方を計画し、社会に実装する（この一連の過程をシンセシスとよぶ）活動。資料 01-02a 参照。

参加機関

資料 01-01b 別紙参照

主要活動

- 1) 学術基盤（情報共有システム、実験・観測・データ解析・シミュレーション機能等）、SIP4D、DIAS、SINET 5、国土交通省データプラットフォーム（計画中）を用いて、Nation's Synthesis Japan の共同構築・推進
- 2) 現行の国際プラットフォーム活動（APRU、DADRI、IFI プラットフォーム等）を基にした国際 Nation's Synthesis の共同推進
- 3) 災害レジリエンスと BBB を実現する官民投資を支える学術創生のための新学術領域の創設提案
- 4) 防災減災連携研究フォーラム（国内外）開催と共同研究推進